

河内小だより

平成22年12月22日 No.39

大人の責任

京都市立堀河高等学校長 荒瀬 克己

「かわいい子には旅をさせよ」と考える親はどれほどいるだろう。また、「若いうちの苦労はかってでもせよ」と思う大人はどうだろう。

抜け道はよくないが、近道を探す若者がいるのは今に始まったことではない。かつては、それを戒めるのが親や大人の役目であった。しかし、今は簡便に快適にそして少しでも早く、というのが親子共通の願いになってさえいるのではないかと感じる。これは、私の思い込みだろうか。

苦労や失敗や挫折はしない方がよい。今の子どもたちはそういうことに耐えられない。そのように考える人もいる。よって、できる限り安心できる道を選ぶ方が無難だ、となる。

面倒なことも避けた方がよい、手っ取り早く簡単な方法があれば少々お金が掛かっても手に入れる方がよい、と考える人もいる。

このようにして、親や大人は子どもたちにさまざまなものを与えてきた。手輕に、悩まず、失敗のないように。答えも、先回りして用意してきた。

総務省統計局の資料によると、2008年の若年無業者（15～34歳）は約64万人、フリーターは170万人に上り、また、厚生労働省の調査によれば、就職後3年以内に離職する率が中学校卒で7割、高等学校卒で5割、大学等卒で4割になるという。これらの原因は単純ではないだろうが、この数字には驚く。このような状況について、中教審キャリア教育・職業教育特別部会は、審議経過報告（09年7月）において「次代を担うべき若者が、社会的・職業的に十分自立できておらず、将来に夢や希望を持ちにくくなっている」と指摘している。なぜこういうことになるのか。

子どもたちに問題が生じているとしたら、直接か間接かは別にして、すべての大人に責任がある。子どもたちは、育てられたように育つものだ。悪意を持って子どもを育てる人はなかろう。しかし、善意が、善かれと思ってすることが、本当にそれでよいのか。大人の責任として考えねばならない。

「日本教育 平成22年11月12号」より

冬休みは豊かな体験を！

明日は天皇誕生日で、24日から1月6日（木）までが冬休みです。「冬休みの暮らし」をもとに、規則正しい生活を心がけ元気に過ごしたいものです。

冬休みの期間は、帰省先の地域や河内地区や各家庭で、クリスマスや正月のいろいろな行事が行われると思います。昔からの伝統行事も残っていると思いますので、今できることに参加したり、どうして残っているのかを調べたりして、たくさんのことを経験し、知識を増やしてほしいと願っています。